

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	英語
科目基礎情報						
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子工学分野		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	テキスト: 自主教材 自学自習教材: eラーニングで身につける初級英語・基礎 参考書: 1. ジーニアス総合英語 (大修館書店) 2. シード総合英語四訂新版 (文英堂) 3.チャート式基礎からの新々総合英語 (数研出版)					
担当教員	矢野 隼人					
到達目標						
簡単な論理的文章を英語で記述し、英語でコミュニケーションを行うための基礎知識を身に付けるために、 1. 高校1年生に必要とされる英文法を理解し、その知識を運用できる。 2. 英語検定準2級の試験に対応するために必要とされる英語力を身に付けるために、基礎的な語彙力、読解力、表現力などを習得し、それを運用できる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	高校1年生に必要とされる英文法を十分に理解し、それをを用いた短い英文を作ることができる。		高校1年生に必要とされる英文法を概ね理解し、それが用いられた英文の意味を読み取れる。		中学校で学んだ英文法を十分に理解できず、それが用いられた英文の意味も読み取れない。	
評価項目2	英語検定準2級の問題を6割以上正解できる。		英語検定3級レベルの問題をほぼ正解できる。		英語検定準3級レベル問題を5割以下しか正解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	自主教材を用いて授業を行う。中学校で既習の英文法を復習することで基礎英文法の理解を深めその定着を図ると同時に、高校1年生に必要とされる英文法を学び、演習問題を通してその定着を図る。そうすることで英語検定準2級レベルの英語に対応するために必要とされる英語力の基礎を習得し、簡単な論理的文章を英語で記述したり英語でコミュニケーションを行うための基礎力を養成することを目指す。					
授業の進め方・方法	文法項目を説明した自主教材とライティング、スピーキング用自主教材を配布し、適宜説明と言語活動を行う。また、学習した文法問題を解き、理解と定着を図る。本授業の合否判定で用いる成績評価は定期試験（2回）とライティング試験（2回）の平均点が100%である。 ・「英語」の評価方法および再試験 については以下に記す。 ○1年生の「英語」の評価方法について ・片岡、林、矢野のそれぞれの合否判定用成績の平均点を60%、単語テストの成績の平均点を20%、英検テストの成績の平均点を20%として、その合計点を出し、その合計点に0.9を乗じて、それにeラーニングで身につける初級英語・基礎」の進捗状況に基づく評価点を加算して、その合計点を「英語」の合否判定用成績とする。計算式で示すと、以下のようになる。 (k, h, y はそれぞれ片岡、林、矢野の合否判定用成績の平均点、Wtは単語テストの成績の平均点、Et は英検テストの平均点、eL はeラーニングの評価点、Total が「英語」の合否判定用成績。) Total = { (k + h + y)×1/3×0.6 + Wt×0.2 + Et×0.2 }×0.9 + eL * 単語テストの成績は100点満点に換算した得点の平均点である。 * 「eラーニングで身につける初級英語・」基礎」の進捗状況に基づく評価点は、以下の通りである。 * eラーニングの評価点は、教材全体の10%を完了することに1点を加算していき、教材すべて（100%）を完了すれば10点となる。例えば、30%以上40%未満の完了状況であれば評価点は3点となる。 ・「英語」の最終評価は、合否判定用成績が60点以上の場合、上記の計算式のk, h, y にそれぞれ片岡、林、矢野の最終評価点を入れて算出した Total の数値となる。 ○「英語」の再試験について ・「英語」の評価で合格点に達しなかったものを対象に、片岡、林、矢野の3人のそれぞれが再試験を実施する。ただし、受験するのは、定期試験の平均点が60点未満だった教員の再試験だけである。 ・再試験で合格となるためには、以下のいずれかに該当しなければならない。 ① k', h', y' をそれぞれ片岡、林、矢野の再試験の得点（再試験に該当しない教員の場合はその教員の定期試験の平均点）とした場合、次の式が60点以上になった場合。(k' + h' + y')×1/3 ただし、定期試験の得点だけで（再試験をひとつも受けることなく）この式が60点を上回っている場合には、林の課す課題の実施状況によって合否を判断する。 ② 定期試験の得点のところ再試験の得点（再試験に該当しない教員の場合はその教員の定期試験の得点）を置き換えて上記の合否判定用成績算出の計算式の算出した成績が60点以上になった場合、もしくはeラーニングを進捗させることでeラーニングの評価点を変更することによって合否判定用成績算出の計算式で算出した成績が60点以上になった場合、またはその両方によって合否判定用成績算出の計算式で算出した成績が60点以上になった場合。 ・教材（プリント）はかなりの分量になるので必ずファイル等にとじ込んで管理すること。また英語（読解）の基本は、音読です。授業のあった日には、スムーズに読めるようになるまで家庭で音読をくり返してください。 ・後関連科目: 英語 (2年)					
注意点	授業で配布された教材（プリント）は、確実にファイリングして復習に利用できるようにしておくこと。 授業後は、例文や練習問題の英文を繰り返し音読する等の復習を行うこと。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 5文型（1）		5文型の基礎的内容を理解できる。第1～ 第3文型を理解できる。	
		2週	5文型（2）		第4～第5文型を理解できる。5文型を全般的に理解できる。	
		3週	助動詞（1）		助動詞の基礎を理解できる。	
		4週	助動詞（2）		助動詞の発展的な使い方を理解できる。	
		5週	進行形		進行形の基礎を理解できる。	
		6週	受動態（1）		受動態の基礎を理解できる。	
		7週	受動態（2）		受動態の発展的な用法を理解できる。	

後期	2ndQ	8週	前期中間試験を実施する	
		9週	現在完了（１）	現在完了の基礎を理解できる。
		10週	現在完了（２）	現在完了の発展的な用法を理解できる。
		11週	過去完了	過去完了を理解できる。
		12週	動名詞（１）	動名詞の基礎を理解できる。
		13週	動名詞（２）	動名詞の発展的な用法を理解できる。
		14週	不定詞（１）	不定詞 3 用法の基礎を理解できる。不定詞の名詞的用法を理解できる。
		15週	不定詞（２）	不定詞の形容詞的用法。副詞的用法を理解できる。
		16週	前期学習内容のふり返り	前期に習得した文法事項を用いてライティングの試験を実施する。
	3rdQ	1週	不定詞（３）	不定詞の発展的な用法（SVO + to 不定詞、疑問詞 + to 不定詞等）を理解できる。
		2週	形容詞としての分詞（１）	形容詞用法の現在分詞の用法を理解できる。
		3週	形容詞としての分詞（２）	形容詞用法の過去分詞の用法を理解できる。
		4週	比較級（１）	同等比較と比較級の用法を理解できる。
		5週	比較級（２）	最上級の用法を理解できる。
		6週	関係代名詞（１）	関係代名詞の基礎を理解できる。
		7週	関係代名詞（２）	関係代名詞の主格、目的格、所有格を理解できる。
		8週	後期中間試験を実施する	
	4thQ	9週	関係代名詞（３）	関係代名詞の発展的な内容を理解できる。
		10週	関係代名詞（４）	その他の関係代名詞（ what など）の用法を理解できる。
		11週	関係副詞（１）	関係副詞の when と where の使い方を理解できる。
		12週	関係副詞（２）	関係副詞の why と how の使い方を理解できる。
		13週	形式主語の It	形式主語の It の使い方を理解できる。
		14週	知覚動詞	知覚動詞 + O + 原形不定詞の用法を理解できる。
		15週	使役動詞	使役動詞 + O + 原形不定詞の用法を理解できる。
		16週	後期学習内容のふり返り	後期に習得した文法事項を用いてライティングの試験を実施する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつなげる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	

				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0